

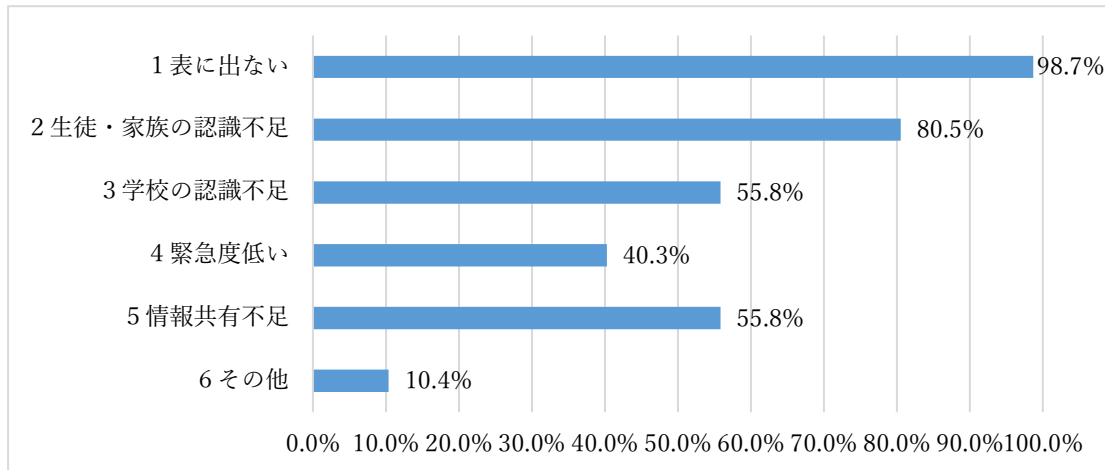
県立高等学校におけるヤングケアラーへの対応に関する アンケート調査結果

1 調査の目的、調査対象及び調査時期

県立高校77校に対して、今後の施策に活かすことを目的に、各校におけるヤングケアラーの認知度等について、生徒へ直接の聞き取りはせずに、学校が現状で知り得る範囲で回答を求めたもの。調査期間は令和3年9月9日～30日。

2 主な調査結果

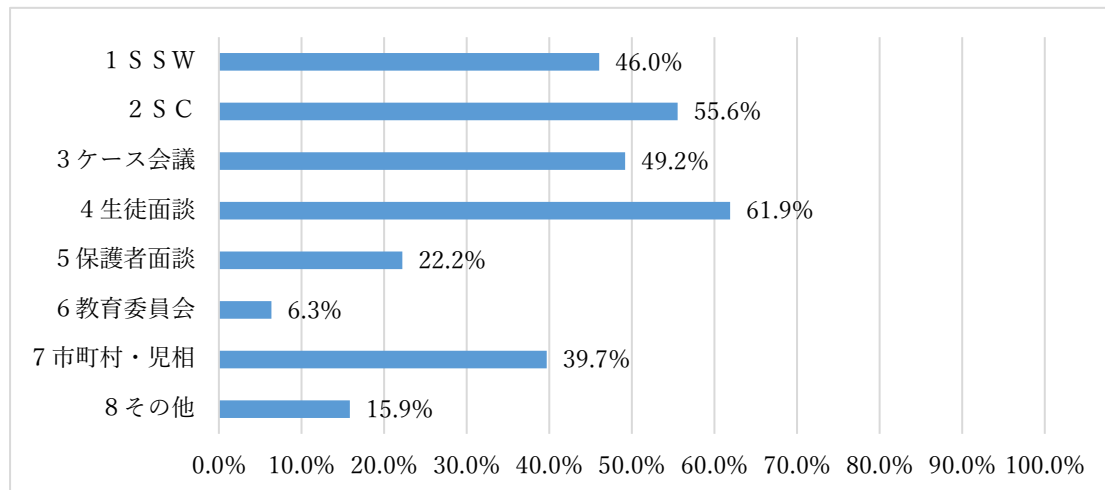
- ① ヤングケアラーと思われる生徒の在籍している学校 63校
- ② 実態把握における課題として当てはまるもの



<その他>

手伝いとヤングケアラーの線引きが難しい。
生徒本人や家族があえて話そうとしないので把握が困難である。

- ③ ヤングケアラーと思われる生徒が在籍している学校（63校）での取組状況



<その他>

- ・入学前の中学校訪問で情報収集をしている。
- ・具体的な取組をしていない

上記結果から、県立高校では学校も生徒もヤングケアラーについて正しく理解できている割合はまだまだ低いと考えられる。また、国の調査でも指摘されているが、ヤングケアラーの認知度が向上したとしても、具体的な支援策がなければ、児童生徒はSOSを発しなくなる可能性もあり、認知度向上とともに支援体制整備が求められると認識する。